

## 「国立台湾大学参加報告書」

京都大学理学部・3年 (伊地智亮輔)

## 学習成果

私は今回の派遣に参加する前は現地の人と密に関わる海外渡航をしたことがありませんでした。そのため国際交流というものを具体的によくわかっていない部分がありました。もちろん今でもわかっていないところも多いです。しかし現地人や世界の様々な地域から来た人々と行動、生活をともにすることで、知識ではなく体験として、異文化、異言語の人々が交流する国際交流というものの理解が進んだと考えています。

さらに生活、学習の場において主に英語を標準語とし、中国語を学習とする環境において、異言語を習得し使用することの困難さ、しかしそれを成し遂げたときの世界の広がりというものを体験できました。私は成し遂げたとは到底言えませんが、それを達成することの意義を痛感出来たため、帰国後の語学学習に対する強い意欲に繋がりました。

今後の派遣参加についてはまだ未定ですが、卒業へ向けての学習や就職活動などがあるためしばらくは困難だと思われる。

## 海外での経験

滞在時間のほとんどはプログラムとその課題に追われる日々でした。ただ、自分の語学力の未熟さから言葉の壁はあったものの国境を越えた友人たちに恵まれ、毎日を楽しく過ごしました。台湾の観光名所のいくつかに行き、多くの思い出を作りました。

さらに日本人学生主催でジャパンナイトというイベントを開き、大きく盛り上がりました。異国の地で自分たちで主体的に動くことは苦しい面もありましたが、終わってみると爽やかな感動となりました。

総合的に見てここまでエキサイティングな内容になったのは、台湾という国の魅力、そして台湾大学生徒たちの尽力のおかげだと思っています。

## プログラム内容

中国語をレベルに応じて五段階に分けたクラスで、英語を用いて中国語の授業を受けました。私はもっとも程度の低いコースでした。中間試験、期末試験、最終プレゼンテーションがありました。日々の課題は多く、大変でしたがその分、力がついたと思います。5,6人の少人数クラスだったことも効果的でした。帰国後、さらに力がつけられるよう鍛錬に励みたいです。

## 進路への影響について

私は今回のプログラム参加を進路選択とはべつものの個人的興味で決めた上、留学の期間も短くその間に学習できる量も期間相応であったため、参加後においても今回の留学がもとで進路希望が変化することがありませんでした。